

資料1**2025年度 事業計画（案）**

NPO法人 たてやま・海辺の鑑定団

1. 目標の確認

50年後の地球環境、我が国の自然環境、地域の自然環境、沖ノ島及び周辺エリアの自然環境を見据え行動する。そのための出来ること「自然環境を守り・伝える」ことを持続可能な方法で行い、未来のための地域の安全安心な自然環境と生活環境を実現に寄与することを目指す。

エコツーリズムからローカル SDGs へ
ローカル SDGs=地域循環共生圏=自立分散型社会の実現

- 連携から協働へ（アマモサミットのつながりを継続）
- 若者たちの「学びの場」「活躍の場」「発言の場」
- ローカル環境ビジネス育成（環境保全活動のビジネス化）
- 認定NPOを目指す。

2. 2025年度活動の計画**(1) 自然環境保全に係わる自然体験活動及び環境教育活動に関する事業****①自然体験活動**

- ◆沖ノ島定期開催活動
 - ・主に連休、GW、干潮時などに日程を組み年間でスケジュールする。
- ◆スノーケリング活動
 - ・夏季スケジュールの実施内容で行う。
 - ・募集開始時期をなるべく早く行う。フレッシュな事前情報アップする。
 - ・沖ノ島スノーケリングの運営マニュアルを見直し、徹底する。
 - ・事前練習会を行う（レスキュー CPR 6月くらい）。
 - ・メンバー増強、リーダー育成
 - ・アソビューにて平日料金設定を行う。

②募集企画活動

- ◆つり体験
 - ・館山港 UMI プロジェクト検討会と連携・協力し、釣具メーカー地域釣具店と協力した釣り大会や釣り場整備を模索する。（UMI プロ釣り振興会 ブルーブルーを中心に画策）
 - ・ちょい投げ釣り体験（隨時募集型）を出来る範囲で行う

③環境学習体験活動

- ◆修学旅行・体験学習など沖ノ島団体受け入れ
 - ・コーディネートのスキルアップ（他団体との連携）
 - ・体験プログラムを他団体（体験交流協会・館山市観光協会・千葉自然学校・MAPs.・南房総市観光協会）や行政と連携する。

- ・足立区以外のアプローチを模索する。(自然の家などとの連携)
- ・ウミホタル観察 団体受入の実施目指す。

(2) 自然環境保全活動及びその普及啓発活動に関する事業

①環境保全活動（実践）アマモと森の再生

◆沖ノ島など藻場・アマモ場再生の実践と模索（地球環境基金・セブンの森）

2017・2018・2019・2020・2021・2022・2023・2024 年度までの活動では、ノウハウを得る事が出来たが、残念ながら磯焼けが進み、さらに食害と原因と思われる移植したアマモの消失により再生が出来なかった。さらにアマモの種場としていた鋸南町の自生地にも2023年に影響が大きく、アマモ場が衰退してしまった。

2025 年度以降は、アマモ場再生だけではなく、館山港 UMI プロジェクト検討会・一般財団法人セブン・イレブン記念財団など、外部にも働きかけ（協働企業様、地元教育機関との協力など）、広い協力体制も元、出来ることを模索しながら継続する。

- ・アドバイザーを招き調査を含め多角的に検討する（セブンの森）
- ・藻場・アマモ場再生に関わる、アオリイカ産卵床の設置を行う。漁協・館山市・水産事務所・ヤマリアとの協働
- ・実験的なアマモの移植活動（沖ノ島またはその他・安房高校、富山中と協働する）
- ・藻場再生の方法の検討（スパアバッグ等を検討継続する）

◆森の再生活動

- ・年自主活動 13 回程度うちワークショップ 3 回程度 改善エリアの沖ノ島の草刈り、日常的なメンテナンスと仲間づくりを行う。（うち数回は、木び土（稻村氏）指導あり・サンライズ財団活用する・予定）

◆沖ノ島から一番近い河川の流域から（蟹田川流域モデルエリア）地元と絡めて実践する。ボランタリークレジットの可能性を探る（株式会社アイフォレストと協働）

- ・一般社団法人等を笠名で設立する見込み（田んぼ再生を含む。協力体制をお願いします）
- ・地域再生ストーリー作成を目指す（笠名を継続）

◆環境保全活動のビジネス化 ローカル環境ビジネスの育成

- ・イベント型ではなく分散密着の活動の提案を企業に行う。（三方よしの、環境再生型、地域再生、社会貢献の提案）
- ・海洋再生ストーリーを考え、支援体制を、海プロを通じて提案
- ・アマモ場再生・森の再生にて CSR カーボンオフセット カーボンニュートラル可能性を探る（UMI プロジェクト検討会＝国・行政・企業連携・協働）
- ・CSR 事業、東亜建設工業・房州ガス・デルテクノロジーズとの協力。
- ・CSR 事業の獲得（プログラム提案 アマモ・森再生・海岸清掃）マーケティングの方法を検討継続

◆各保全活動はその目的に関する寄付金を募る

- ・認定 NPO の条件を達成する。保全活動の際に募金箱や、常に案内パネル等を設置（アマモや森のイベント時に積極的に寄付を募る）

②環境啓発活動

◆ローカル SDGs の実現に向けて、地域連携・協働を図る。MAPs. 合同会社アルコとの連携は継続する。

◆地域環境ビジョン作成と実践（地球環境基金 5 年間 申請中）

◆沖ノ島について考える検討会議などを通じて沖ノ島の改善の提案を行う。**沖ノ島地域環境ストーリー（あるべき姿へのロードマップを地域協働にて作成模索する）**

◆ガイドブック（海辺の生き物語）

- ・ツールとして活用し、啓発活動を行う。

◆沖ノ島の自然環境の「大切さ」を多くの人に伝える普及啓発のためのシンボルマーク（沖ノ島環境保全プロジェクト）を地域住民や来訪者の協力のもと活用継続。

◆ビジターセンター パークレンジャー活動の継続 ※設置場所の検討・活動内容の再確認（目的の再確認）

- ・ビジターセンターを継続する。（**地球環境基金申請中**）
- ・海水浴期間中のゴミ拾いタイムを設定する。（**その他トイレ清掃の提案を行っている**）

◆地域啓発イベント里海博を実施する（2月）

（セブンの森助成・館山市地域協働補助金 企業協賛 海プロ）

- ・地域の子供達が役割を担い、今後持続的に関わっていける仕組みづくり、漁協、企業等が地域の環境保全に持続的に関わっていける仕組みづくりのきっかけとする。

- ・地域の若者・子供たちの「学びの場」「活躍の場」「発言の場」を創出
- ・特に千葉県立安房高等学校との連携・協働を強化する。

◆指導者養成講座を実施する。理解者と実施者（指導者・スタッフ）増

（**高校生が参加できるようにならないか（基金申請中）**）

③沖ノ島環境保全協力金事業（受託予定）

説明会、事前の勉強会を開催。海辺の鑑定団または管理人材アルバイト1名または、主に学生アルバイト2名の3名体制で行う。

（**プロポーザルに変更、ビジターの設置について確認が必要**）

④調査研究活動

- ・ローカルSDGs、ローカル環境ビジネス 地域のエコツーリズム研究（**桧原村で申請中 東京都の事例検討**）

3. 実施体制

●クレド励行する

① 会員体制

- ・積極的な活動スタッフは正会員（総会議決権あり）へ。入会の勧誘（本人の意思）

②スタッフ制度

- ・活動スタッフを募る
- ・リーダー的人材育成
- ・夏の人員確保（スノーケルとビジター 受付業務、協力金業務など）
- ・全体ミーティングの開催（年5回程度）

③寄付会員など、うみかんメイト

非会員・非スタッフの応援者をつくる

④役員体制

- ・定例理事会開催（年に3回程度 カレンダーにて実施）

⑤事務局体制

- ・事務局ミーティングを実施 月1回（予定）
- ・受付方法などの簡素化を推進する。予約システム ウラカタ 継続する
- ・事務局メンバー（**事務局長**）を1名程度追加する。

・会計総務のシステム化

⑥スキルアップ

・新しい人材の発掘 既存人材活用 (指導者養成講座 助成・案)

⑦活動区分

・活動目的・内容・形態により費用も対応した活動区分を活用

⑥広報・顧客に対する工夫

・チラシ/HP FACE Book SNS の活用ノンペイドパブリシティ (新聞)

・じゃらんネット・アズビューの活用 (一部)

・映像コンテンツを作成・活用継続する (年間 15 本・年間計画を作成・予定)

・会報誌 (年 1 回) (P D F)・会報の発行 (4 月) 寄付者の他に、理事、会員、スタッフ うみかんメイト、保全活動参加者の中で希望する人に対して発行する。

⑦連携・協働体制

・館山市

・体験交流協会 館山市観光協会 南房総市観光協会 Maps. 休暇村館山 千葉自然学校 AQA・その他メー
カ一も連携・協働を模索する。

・NPO 法人海辺つくり研究会 (木村尚氏を中心) アマモ再生、仕組みづくりなど

・自然教育研究センター海上智央氏 (案) 海洋環境再生や調査

・木び土 (稻村氏) 森林再生

・国立大学法人お茶の水女子大学湾岸生物教育研究所との協働

・セブンの森 セブンイレブン記念財団 館山市との協定継続

・館山港 UMI プロジェクト検討会との連携・協働 (国土交通省・千葉県・館山市・企業など)

※南房総市・東京海洋大学との連携・協働を継続する。

⑧拠点整備

・長期計画を再検討する

4. 資金調達 (自主事業・CSR 事業以外)

①助成金

・沖ノ島ローカル SDGS に関する申請 (・地球環境基金地域協働型申請済み)

・セブンイレブン記念財団 (協定にかかる内容) セブンの森助成継続

・サンライズ財団申請中

・国の施策や、他団体の助成活動と連携する。

・随時情報を見ながら検討する。

・渚の交番への道筋を継続検討 (2025 以降でどうするか再生リフォームではダメか?)

②寄付金 コングラント決済継続

活動やプログラムと連動した寄付金収入を検討する

動画コンテンツの活用を行う。